

## 萩にあしあと残そよ

「足早に過ぎた二月でした。」



1月の誕生日  
を自ら祝う！

### 「自由気ままな歌日記」

海水の池の周りで啼き交わす  
鳶の声さえ嘆きに聞こゆ

(二月二日)

### 「日々の暮らし」

会社の業務の都合で、出社  
日と休業日の入れ替えが生じ  
て連休ができ、久しぶりに塩

原へ帰省しました。

急だったので周囲を驚かせま  
したが、多くの人と会うこと  
ができました。ワクチン接種

が始まりましたが、生活も仕  
事もしばらく現状維持となり  
そうです。そんな中、思い切  
つて出かけられて良かつたと  
思います。(一月二十四日)

友の顔次々浮かぶ  
コロナ禍の休業続く  
長い夕べに

(二月四日)

自己流の隠し味さえ  
ない料理とはいえ旨し

酒を継ぎ足す

(二月一四日)

身軽なり一昨日決めて  
今日帰省 千二百キロを  
駆け抜けていく

(二月一九日)

二年ぶりに

母がこさえた弁当を  
帰省がえりの車中で食べる

(二月二十四日)

からの強い季節風が吹き荒れ  
る日が多いです。以前、北欧  
から訪れた人が、冬空の様子  
が似ていて親近感がわくとい  
う話をしていたそうです。

※新幹線での移動でした。

令和3年(2021)  
3月1日発行  
-第20号-  
発行：大塚好一

### 「あしあとノート」

#### ◆楊貴妃伝説の寺・二尊院◆



龍伏山天請寺二尊院  
は真言宗の寺です。



中央が楊貴妃の墓と  
伝えられています。

楊貴妃といえば世界三大美女のひとりと謳われる人物。中国唐代、玄宗皇帝の妃でしたが、安禄山の乱の際に殺されたとされています。ところが、実は生き延びて日本に流れ着いたという伝説があり、その漂着地が長門市油谷の久津海岸といわれています。

二尊院は、楊貴妃の墓と伝えられる五輪塔や、玄宗皇帝から送られたという国重文指定の本尊・二尊仏（釈迦如来像と阿弥陀如来像）がある歴史ロマンススポットです。

#### ◆本当に“長い”長屋◆

萩城大手門の正面に位置する厚狭（あさ）毛利家萩屋敷の長屋は、桁行五一・四mもある長大な建物です。主屋などは残つていませんが、広大だつたことが容易に推測できます。（国指定重要文化財）



安政3年(1856)の建築  
と記す棟札が残っている点  
に歴史的価値があります。

#### ◆皇太子殿下行啓之所◆

萩城跡指月公園内にある展望所。そこは二の丸を開む石垣の上で、海に面した場所です。大正一五年五月三十日に皇太子殿下（のちの昭和天皇）が行啓され、お休みになつた記念碑が建つています。ここからは眼下に美しい水面、先には白砂青松の菊ヶ浜などが眺望できます。殿下が秋吉の滝穴を探勝され、後日「秋芳洞」と命名されたのも、この行啓の時でした。



当時はもっと浜が広く松も多  
かったことでしょう。

… 萩にあしあと残そよ 令和3年(2021)3月1日発行 第20号 発行：大塚好一 …

あらかじめ収穫しておいても  
らい、社員が手分けをして一  
斉に回収します。一袋二〇〇  
二五kgにもなるので、積み下  
ろしはなかなかの重労働です  
が、萩産の夏みかんがたくさん  
集まりました。翌週には工  
場での搾汁も行われました。

## ◆マテソン大会に参加◆



19kmの部に参加。競わずにマイペースで走りました。

◆花の便りが続々と◆  
鴨山記念館があることから数回訪れている町です。緩やかに流れる江の川と周囲の景観を楽しみ、茂吉の足跡が刻まれた土地を走ることができるとは、まさに願ってもない機会となりました。

島根県の美郷町で開催された「第一回江の川エンジヨイソロマラソン」に参加しました。感染予防対策を図るのはもちろん、スタートも十秒間隔で二人ずつ出ていくというスタイルでした。



〔萩の五十畳  
その③〕

この時期の萩は、萩往還梅林園では紅白やしだれの梅、そして笠山椿群生林ではヤブツバキが咲き競い、それぞれまつりも開催されます。昨年はコロナ感染拡大で中止が相次ぎましたが、今年はマスクを着用した人々が各地から足を運んでいるようです。



萩出身の人が寄贈した河津桜ということです。

浜崎地区は、城下町の形成にともない、海の玄関口として開かれた港町です。江戸時代には北前船の寄港などで、

スケッチを元に築造

反射炉は、鉄製の大砲を鋳造するために必要な粘り気のある鉄を作るための溶解炉で

十年に建てられた木造二階建ての旧明倫小学校校舎。現在は「萩・明倫学舎」として、藩校の歴史等を始め、世界遺産・ジオパーク・幕末維新史など、萩を学び知ることができます。



# 木造の明倫学舎で萩を知る

明治以降も商業や漁業・水産加工業の隆盛を背景に栄えました。町家や土蔵が軒を連ねる町人地らしい町並みが魅力です。



江戸期の萩城下町は低湿な  
三角州のため、常に水害と嘆  
あわせでした。たび重なる情  
状を見て一三代藩主毛利敬親  
が四年の歳月をかけて運河を  
開削しました。姥倉運河は洪  
水時は放水路として、平時は  
船の通路として人々の生活を  
支えています。



す。佐賀藩が築造した反射炉を視察した際のスケッチを三に、見よう見まねで築いたふうで、萩藩が作つた反射炉は残念ながら実用化には至りませんでした。

恵美須ヶ鼻造船所では、幕末にロシア式とオランダ式の木造洋式軍艦が建造されました。西洋の造船技術を積極的に取り入れようとした萩藩の姿勢が伺えます。異なる技術の造船を同じ場所で行つた事例は、他に類を見ないといわれます。



類を見  
るいみ

え  
び  
す  
が  
はな  
ど  
っ  
く  
あ